

「大樹に育つためには、小さな自信の芽を伸ばしてあげましょう」その2

園長 高杉美稚子

前期前半お疲れ様でした。そして心からありがとうございました。いよいよ後半がはじまります。前期前半でのO157の件では大変なご心配とご迷惑をおかけいたしました。この件では、時期が早いうちに迅速に対応できた事が結果として良い方向にむすびついたのではないかと、職員にとっても幼稚園の今後にとっても、よい学びの場としての体験になりました。人は何も無いときはいい、でも何も無い人生はありません。何かあったとき、どのように対応できる人間であるのか、どのように感じ、後悔ではなく反省を持って、どのように振り返る事が出来るのかやはり人間教育では大切ではないでしょうか。結果が出たあとではこうすればよかったと思えることも、その時に判断していくのは本当に難しいことです。どうなるかわからない時、自分の感情に気付き、その自分の心の声に正直に、揺らぐことなく、自分の決断を最後まで、自分で信じる事が出来る教育、すなわちそれが吉塚幼稚園で実践している、「自分が大好きで、自分が信じられる」教育ではないかと考えます。

「自分が大好きで、自分が信じられる人は、人生の平坦で、まっすぐな道にあるいていく」、「自分が嫌いで、自分が信じられない人は、でこぼこで、曲がりくねったいばらの道を歩く」と、かのキング牧師も心理学者の加藤諦三先生も言っておられます。その教育は、「自己選択→決断→承認→自信→他他分離→個性性→共感→自立」の教育の循環を通して、真に自立し、自分の事が大好きな子ども達を育てていくことが、やはり一番大切なことであると、O157の件を通して思ったものでした。

その為には、大人の方も先ず自分の事を好きになって頂きたいのです。誰しも完璧な親ではありません。そして親である私たちも又、完璧な親に育てられたわけではありません。人間は皆、心に穴を抱えて生きて、どこか平坦ではなく、曲がりくねっているのかもしれない。だからこそ、生きている限り「心の教育」が必要なのだと思います。この一件のおかげで、後半はお泊まりキャンプでの幕開けとなりました。皆元気に登園してきてくれました。この機会に当たり子ども達の幸せの「心の教育」と「私たちの幸せ」について考えて見たいと思います。

「心の教育とは」

ルールを教えるのではなく、なぜそうしないといけないかという気持ちを教えるのが『心の教育』ではないかと考えています。「おはよう」といいなさい、「片付けることが大切」という事を教える事が教育ではなく、おはようという気持ちが良い、片付けると気持ちが良い、心地がいいんだ、好きだ、いいなという気持ちを教えるのが心の教育です。この気持ちが理解できない限りしつけも子どもの心と体の中に定着することはありません。片付けると次の人が気持ちいいんだよ。そして自分が一番心地が良いんだということを感じること、学ぶこと。何事もなぜかということを経験すると子どもは納得します。なぜそうしたほうが良いのかを感じさせ「なぜ」という理由を説明するのが心の教育なのだと思います。「なぜ」を教えないとルールだけを守る人間になるのではないのでしょうか。心を教えないで社会のルールだけを教えておくと、その人は間違えた努力をしてしまうことになります。

関西での列車事故の際に、次の電車の運転があるからと、事故現場から帰った社員がいましたね。「遅刻をしない」ということからすれば彼の行動は正しかったのです。でも「なぜ遅刻をしてはいけないのか」が体で理解できていなかったのだと私には感じます。そのことが理解できていたら、たとえ上司に叱られようと現場に残ったかもしれません。だからこそ「してはいけません」から「しないようにしましょう」への教育が必要です。

「盗んではいけません」ではなく「なぜ盗んではいけないのか」という心を育てるのが教育です。正しい事を言うのが教育ならこんな簡単なことはないでしょう。教育には、情熱も、忍耐も、努力も要らなくなります。

「自立をしなければならぬ」というだけなら誰でも教育は出来ます。「自分も自立をしなければ」という心に持っていく事が教育であるから親も教師も苦労するのです。そこには、深く、大きく、広い、情熱も、忍耐も、努力も必要だからです。勉強にしろ、遊びにしろ、雰囲気を作り、子どもをその気にさせるのが教育です。

次に、心の教育は子どもの心が満足している時に出来ます。心を満足にしていれば黙っていても子どもは優しくなれます。枯れた花がかわいそうと思う心を教えるとしても、自分がつらくて満足していなければ花をかまっていられません。

親や先生が気持ちをわかってくれてほっとした。この満足したという体験が統合されて思いやりができる。この体験があるから同じ体験をした人に優しくなれるのです。かわいそうの意味、思いやりを教えるとしてもその意味をしらなければ子どもは理解できません。もし、子どもが、その事に気付かないで、ただ親や他人の承認を得ようとして言いつけを守るとすれば、その意味がわかっているのではなく怒られるのが嫌だからしているのであって、理解しているのではないのです。ほっとした体験をしたときの気持ち、お茶も缶で飲むよりコップに注ぎ変えて飲むほうが気持ちいいという心、感情、こころよさを育てる事によって心を育てます。お花が枯れてかわいそうという気持ちを体感してこそ心を育てます。すべての教育は子どもが自分の心に躍動するものがなければなりません。そしてその気持ちをわかってくれた人の言う事を人はきくのです。そして、子どもが素直になつとき、子どもがかかわりの中

心になった時に初めて心の教育が出来るのではないのでしょうか。

大人でも自分の気持ちをわかってくれない人の言うことを聞けますか？子どもはもっと敏感です。大人より思考型ではなく、まだ感情で動く年齢だからです。だからこそ、子どもだけの感動もあるのです。あまりに思考型になって、感情を感じれなくなった大人は感動も出来ません。感動がないところには共感もないので、その人は次々とトラブルメーカーになりかねません。自分の感情に気付くことが出来る人は、それはその感情として受け止め、いったん自分の心の中に置いて、別の行動が選択できるからです。感情に気づけない人は、自分が何でそんなに腹が立ったりするのかかわからないので、その気持ちを自分の心の中にとどめておいておけないので、そのまま爆発してしまうのです。本当の自分の感情『心の声』に気付いていなければその声に正直になる事は無理です。正直になれないということは、自分を信じることができないということにつながりますので、ひょっとすると自分を認めていなくて他者承認を強く求めて苦しんでしまっている方かもしれません。他者承認を求めてしまっているうちは、他人の承認のほうが先ですので自分の気持ちが後になってしまうのです。もちろん人間社会ですから他人の気持ちを考えることはとても大切です。でも本当のところ自分の感情にすら気付けない人が他人の気持ちなど気付けるはずもないのです。そして、「認めて」と言っているうちは「私を認めてくれないあなたを認めない」という気持ちに陥っているのです。だから、他者承認ではなく自己承認が必要となってくるのです。と、同時に『自己責任』とは何かが起こったときに自分で責任を取るという大切なこともあります。最も大切な事はその時その時の『今、ここ』の自分の感情に気付いてどのように行動するかという小さな（でも結局はとても大きな）決断を毎日毎日、一瞬一瞬積み重ねていくことです。大切な事は自分の心の中にいったん入れておいて、その感情を受け止めることができれば、その場に応じた行動が自分の決断で取れる人間になれるということです。「毎日の小さな積み重ねの中の小さな決断を数多く体験すること」が大切です。そのことが最も大切なことであり、そのことこそが本当の自己決断だと思うのです。

この文章は難しい、理解しづらかったかもしれません。少しでも分かっていただける部分があればよかったのではないかと思います。でも、もしかしたら全く何のことも理解しにくかった方は、ひょっとしたら今の自分の感情に気付いているつもりでも本当の自分の感情『心の声』に気付いてない方かもしれない、ということに少しだけ気付いてください。もし、そのことが今できていなくてもどうか焦らないでください。このことについて、私が気づきつつあると感じたのも最近のことです。感じていることは自分だけのもの、自分からそう感じているのですから誰からの批判を受けるものでもありません。感じていることをただ黙って受けとめて、誰にも分かち合っていないことの方がいいのではないかと感じることもあります。こうやって文章にすればするほどただ黙って私の心の中にとどめているより、私は自分の感情から遠ざかっているような気がします。でも、皆さんに伝えたいのです。そして、知っておいて頂きたいのです。皆さん自身と子ども達の教育の為に、本当に自分を信じ好きになるということは、自分の感情『心の声』に気付くことだということを。このことこそが本当の心の教育、感性『見る力・聞く力・感じる力』の教育だと思うのです。

最後に、先生との一体感、子どもはかかわることで自分の存在を生み出します。園や家庭生活を通して、人は自分が自分であるというアイデンティティーを確立していくのです。皆と力をあわせると気持ちが良いということ、子どもも大人も感じていきましょう。

「幸せとは、そう感じる自分がいること、その為には人生は楽しむためにあるのではないかという事にきづくこと。」楽しい事を探している人はいっぱいいるけれど、今、目の前にあることを楽しめる資質をもっている人はまれです。そしてその資質を持つことこそが、私たちの人生の目標だと思うのです。不愉快と思うことすら楽しめる自分であること。そんな自分が会得できたら、どんなに心が楽に生きていけるのでしょうか。その為に必要な目標は二つ、どんな時にも、自分の心の中にリラックスを感じること、自分にとってのリラックスはなにかという事を知ること、どんな事も楽しむ気持ちを持つこと。そのときの、「今ここ」の感情に気づいていることです。

今いる、この吉塚幼稚園が誰にとっても、そしてもっとも私が自分にとってよい場所で、リラックスを感じることが出来る自分になれば、どこにいても、いつでも、リラックスを感じる事が出来るでしょう。幸せの青い鳥は常に自分の側にいるのです。今、この場所で、家庭で、職場で、この人との集まりの中で、自分が幸せを感じる事が出来なければ、どこにいても、誰がいても、誰がいなくても幸せを感じることは難しいのではないのでしょうか。幸せを感じることはその人の能力だと思います。そしてその力は磨く事が出来ます。その為にも、等身大（過大評価でも過小評価でもない）になりたいけれど、そうでないと自分が見えるときさえも楽しめる自分でありたいと思います。これから保護者の皆さん、いつも私に命を与えてくれる子ども達、そして一番の理解者である職員とこの実現に向けて心をひとつにしていきたいと思います。これからも力を貸していただきますようお願い致します。親も教師も、園児たちも、それぞれが自分で自分に頑張ったねと言える、学期にしましょう。